



Botswana Medical Information



2018年1月

新聞報道抜粋

●プリンセスマリーナ病院にてクレブシエラ菌による感染症が発生

同病院のプレスリリースによると、2017年12月末より新生児病棟にて10例のクレブシエラ感染症が発生した。7例の症状は安定しており、3例は新生児ICUにて治療が行われている。病院は感染コントロールを行っており、状態が安定している新生児は小児科医付き添いにて、デボラ・レティフメモリアル病院、スコティッシュ・リビングストン病院、アトロン病院、セブンスデイアドベンティスト病院へ転送される。クレブシエラ感染症はクレブシエラ菌による院内感染の1種であり、肺炎、敗血症、創感染、髄膜炎を起こすが、健康な人へは通常症状を起こさない。(10日 デイリーニュース紙)

●ハボロネ市内でみられるヘビについて

Black mamba (mokwepa), Snouted Cobra, Mozambique Spitting Cobra(collectively kake), Boomslang(logwere) Twig Snake(legonyana), Puff adder(lebolobolo) これらはヘビのピークシーズンである1月から4月にハボロネ市で最もよく見られる毒蛇6種である。これらは南アフリカのAfrican Snakebite Instituteにおいて、死亡にいたらせる「大変危険」なカテゴリーに分類されている。

南アフリカでヘビ捕獲に関する資格を有し、ボツワナの野生動植物省に協力しているシーン・テイラー氏によると、カーリーとオッディヒルの谷間にできた新しい町であるハボロネはハ虫類の生態系を狭めたため、ヘビと遭遇する機会が増えており、彼のオフィスのあるコマースパークのドアの外でもモザンビークスピittingコブラを見かけたと述べた。蛇毒は多彩であり、神経系を障害するもの、血液系を障害し出血させるもの、細胞毒性により、四肢の壊死をおこすものなどがある。プリンセスマリーナ病院には、ほとんどの抗蛇毒を有する。

テイラー氏は、ヘビの知識を普及させるために、フェイスブックにて蛇を捕獲する様子を掲載し、トレーニングも無料で行っている。

ヘビが敷地に入らないようにするには、庭を清掃し、ヘビが隠れるようながれきを撤去し、餌となるネズミやカエルが繁殖するのを防ぐ必要がある。

またヘビより5メートルの距離があれば、ヘビが攻撃したり近寄ってくることはない。

彼からのアドバイスは、もしヘビをみたらペットも含め安全なところへ移動し、専門家が除去できるよう、ヘビから目を離さないようにすること。また夜外出する時は、トーチを

もち、サンダルでなく、足を覆う靴を履く。物をつかむ時はよく見てつかむ。暑い時期は、へビは冷たい場所を求めるので、ドアや窓を開けておくときは注意する。そして、一番大切なのは庭を清掃すること。(12日メヒ紙)

● 輸血不足

国家輸血サービス(NBTS)の担当者によると、WHO が定める国の必要な輸血量は国民の2%が献血をする量、これは、血液4万単位にあたるが、NBTS 始まって以来この目標に達したことはなく、現在2万700単位保管している。血液量は不足状態にある。進展としては、輸血によって感染する感染症のある血液が処分されることがすくなくなった。担当者は安全な血液確保のためのイニシアティブ、プレッジ25クラブを推進しているとのこと。これは、若者に感染につながるような行動を減らし、生涯最低でも25回の献血をおこなうことを進める若者向けの活動である。(15日 デイリーニュース紙)

● プリンセスマリーナ病院訴訟問題

早産のためプリンセスマリーナ病院に入院し、出産した女性が訴訟を起こしている。訴状は新生児の体を暖めるために置かれた保育器内のお湯のボトルから、お湯が漏れ、火傷をおわしたとのこと。被告(プリンセスマリーナ病院)は、お湯が漏れたことはなく、お湯のボトルを使用しなければ、患者は死亡していた可能性もあると述べた。(13-19日 ウィークエンドポスト)